

事務事業評価シート(多可町教育委員会)

1 事務事業の概要 < Plan >		担当課 管理(文化会館)	課長名 萬浪佳隆	記入者 藤浦美由姫
事務事業名		新規・継続	事業開始年度	完了予定年度
芸術・文化活動を通じ、文化の香るまちづくりを推進		新規 ○ 継続	年度 ○ H19以前	年度 未定
事務事業の体系				
計画 掲載	多可町総合計画	(章) 2 笑顔でつつむ、あったかいまち (基本計画) 文化の香るまちをつくる	(節) 2 学ぼう、活かそう	
根拠法令・条例・要綱等		事業区分(該当する区分に「○」)		
多可町文化会館条例		○ ソフト事業	施設の維持管理	
多可町文化会館条例施行規則		義務的事業	内部管理事務	
事務事業の具体的内容		建設・整備事業	計画などの策定	
「山田錦発祥の里」として、「加藤登紀子日本酒の日コンサート」をさらに魅力あるものにするなど、自主公演事業の充実を図り、まちの活性化に努める。また、文化祭・芸能祭・音楽祭では、文化交流を通して、文化振興はもとより住民相互の一体感の醸成に努める。		補助金の支給	○ 有	無
		委託	全部委託	一部委託
		○ 委託なし(全部直営)		

2 事務事業の目的 < Plan >		
対象 (働きかける相手・誰が・もの)	受益者 (誰を・何を)	意図 (どういう状態にしたいのか)
町民ほか	町民ほか	情報の提供による文化事業への理解と協力を得、集客を図る。

3 事務事業にかかる予算細目 < Plan >				会計名	一般	会計
細目名	文化振興費	細目名	文化会館費	細目名		
予算 コード	款 10 項 5 目 8 節	予算 コード	款 10 項 5 目 9 節	予算 コード	款 項 目 節	

4 事務事業実施にかかるコスト < Do >						
事務事業・人員		単位	19年度 決算	20年度 見込	21年度 計画	備 考 (全体事業費など)
総 コ ス ト			56,596	57,250	116,688	大規模改修工事 60,000千円 自主運営事業 18,000千円
コスト の内訳	直接事業費	千円	26,185	25,706	26,475	
	所属内間接費		30,411	31,544	90,213	
	投入人員	人/年	5.00	5.00	4.00	
財源 内訳						合併特例債58,700 円 ふるさとづくり事業 基金、使用料
国・県支出金	地方債	千円		2,400	58,700	
	その他特定財源		25,200	25,400	25,000	
	一般財源		31,396	29,450	32,988	

5 事務事業の手段 < Plan > と活動指標 < Do >						
事務事業を構成する業務	手段 (事務事業整理シートより)	活動指標 (手段の数値化)	単位	19年度 実績	20年度 実績	21年度 目標
1 自主公演事業	広報誌掲載、チラシ配布、ポスター掲示、懸垂幕、新聞広告、ケーブルテレビ、行政無線放送、広報車等による情報の提供を行う。	自主公演事業の開催数	回	10	9	9
2 文化振興事業		町主催文化振興事業開催数	回	6	5	5
3 文化連盟事業		文化連盟主催事業開催数	回	6	7	7
4 VOC事業		VOC主催事業開催数	回	3	3	3
5						

(ソフト事業)

事務事業名 [芸術・文化活動を通じ、文化の香るまちづくり
を推進]

6 事務事業の実績 < Do >		19年度 実績	20年度 実績	21年度 目標	備 考 (成果指標の考え方・計算方法)
成果指標(意図の数値化)	単位				
自主公演事業券売率	%	70	87	85	過去3ヵ年平均から80%以上を目標とする。
稼働率	%	74	75.1	60	H21年度の稼働率は大規模改修による使用不能機関があるため

7 事務事業の事後評価 < Check >				(ソフト事業)					
チェック項目				該当項目に「○」				担当の把握している課題	
必要性	需要への 対応性	住民ニーズは	○ 高い	○ 高くない	把握なし	地域住民に近くにいながら本物の芸術に触れられる機会の提供を行うのは公共ホールの使命であり町民ニーズの把握が必要。			
		緊急性は	○ 高い	○ 高くない					
		利用者・対象者数は	○ 増加	減少	横ばい				
		他市町と比較して対象者に見直しの余地は	○ ない	○ ある	把握なし				
	町の関与 の必要性	民間の事業(サービス)との競合は	○ ない	○ ある					
国や県の事業(サービス)との重複は		○ ない	○ ある						
妥当性	サービス 水準の 妥当性	事業開始時から社会環境の変化は	○ ない	○ ある		芸術鑑賞への関心度の向上のための方策と工夫が必要。			
		環境変化によるサービス水準の見直しの余地は	○ ない	○ ある					
		他市町と比較してサービス水準の見直しの余地は	○ ない	○ ある	把握なし				
	連携の 可能性	他課で類似の事業は	○ ない	○ ある					
		他の事業と統合できる可能性は	○ ない	○ ある	あるが困難				
		民間や他の行政機関と連携できる可能性は	○ ない	○ ある	あるが困難				
効率性	手段・ プロセス の効率性	事務事業を構成する業務に見直しの余地は	○ ない	○ ある		住民をさらに巻き込んだ参加型事業の実施。			
		コスト削減の観点から実施方法を見直す余地は	○ ない	○ ある					
		サービス向上の観点から実施方法を見直す余地は	○ ない	○ ある					
		受益者負担を見直す余地は	○ ない	○ ある					
有効性	目標の 達成度	成果指標が明らかで	○ ある	○ ない					
		前年より成果が上がって	○ いる	○ いない	横ばい				
	持続の 可能性	継続することによる効果は	○ 高い	○ 高くない					
		世代間負担の公平性、社会的平等性が保たれて	○ いる	○ いない	測定困難				
		事業の休・廃止による住民への影響は	○ 大きい	○ 大きくない					
市場化の 可能性	既に全部委託済	更なる委託化が可能である	委託化の余地があり	○ 委託化は不可能					
	市場化テストの導入について検討する余地がある	○ 市場化テストの導入を検討する余地はない							
改善の可能性		1.改善の余地はない	○ 2.改善の余地がややある						
		3.改善の余地が多い	4.抜本的な見直しが必要						

8 改善提案と今後の改善の方向性 < Action >					
職場からの意見			今後の具体的な取り組み		
(施策を取り巻く環境) メディア等の発達により、ホール利用者が減少している。また、情報が多すぎてニーズの把握が困難である。			(課長としてこの事業をどのようにしていきたいか) 自主公演事業をはじめ文化振興事業への理解をさらに深めるための工夫をする。ホールに一人でも多くの人々が訪れ、文化を通じた交流が図れる環境をつくり、人が元気になれる町にする。		
(課題の解決についての提案など) 舞台芸術の魅力をアピールするための方策を考えながら、ホールに気軽に訪れてもらえるための工夫とし、てロビー開放事業を実施する。また、文化事業を様々な方面から応援してもらえる人たちを増やしていく。			自己評価		3 目標は達成されている
今後の方向性	○	1.重点的に継続	2.現状のまま継続	3.内容を見直しながら継続	4.縮小を検討
		5.統合・連携を検討	6.休止・廃止を検討	7.終了・完了	